

2006 年度

科目名 ジェンダー論（総合講座）	対象学科・学年 文学部日文3回生 教育教福3回生 文学部英語3回生 文学部教福3回生 文学部文財3回生 文学部コミ3回生	担当者 日合あかね
授業テーマ 女性に対する偏見・差別の現状と構造を見つめる。		
授業の概要と目標 この授業は、ジェンダー論が指摘してきた社会的な問題についての知識を深めるとともに、現在、女性が置かれた状況について、特にセクシュアリティに焦点をあてつつ、その原因（相違点・共通点）を考えることをねらいとする。		
評価方法 後期末レポート		
テキスト 適宜指示する。	著者	出版社
参考書 適宜指示する。	著者	出版社
授業スケジュール・内容 1. 「女性」の性的自由とは何か 現在、女性を読者としたポルノグラフィックな雑誌が多数発刊されている。しかし、それらの内容を見てみると、これまでフェミニズムが批判してきたような、マゾヒスティックなものが多い。この現状を、女性の性的自由という観点から、どうとらえるべきか。 2. 「女性」の性的自由とは何か（その2） 前回の続き。「女性のマゾヒズム」について、さまざまな定義づけがなされてきたが、いくつかの代表的な理論を紹介し、それを踏まえうえて、「女性のマゾヒズム」を題材とし、性的自由はどのようなものであるか（あるべきか）を考える。 3. なぜ結婚するのか 結婚とはどんなものだろうか。何のためにするのだろうか。結婚観・家族観は徐々に変化してきたが、理由のひとつに「女性の社会進出」が考えられる。では、女性の社会進出が、結婚や家族にどのように影響をおよぼしているのか。 4. なぜ結婚するのか（その2）——憲法24条について 憲法24条についての議論を紹介する。同性パートナーシップの問題や夫婦別姓について、それぞれの利点や難点について議論する。 5. ジェンダーフリーは可能か ジェンダーフリー教育が必要であると言われている一方、ジェンダーフリー教育に対する批判も多い。実際にジェンダーフリーとして教育現場で進められているいくつかの具体例を紹介する。 6. ジェンダーフリーは可能か（その2） 前回の続き。前回で紹介した具体例をもとに、「男」「女」というジェンダーは本当になくすべきなのか、なくすることができるのか、ということ、各自考えてもらい、議論する。 7. まとめ		